



昌琢連歌百韻十卷

伊地知文庫  
文庫20  
114





昌琢連歌三千二百韻

三冊之内中

外昌硯 百韻

又色 百韻



大あし中申川の音るふか  
 こゝろの松と川のほてゝふか  
 あらと風を流りせむ時あふ  
 いらふりておのゝまゝなる初可ぬ  
 おくのておのゝまゝなる初可ぬ  
 本松のまゝに吹く風ふか  
 えりて  
 中松のまゝに吹く風ふか  
 おのゝまゝなる初可ぬ  
 大あし中申川の音るふか  
 こゝろの松と川のほてゝふか  
 あらと風を流りせむ時あふ  
 いらふりておのゝまゝなる初可ぬ  
 おくのておのゝまゝなる初可ぬ  
 本松のまゝに吹く風ふか  
 えりて  
 中松のまゝに吹く風ふか  
 おのゝまゝなる初可ぬ  
 大あし中申川の音るふか  
 こゝろの松と川のほてゝふか  
 あらと風を流りせむ時あふ  
 いらふりておのゝまゝなる初可ぬ  
 おくのておのゝまゝなる初可ぬ  
 本松のまゝに吹く風ふか  
 えりて  
 中松のまゝに吹く風ふか  
 おのゝまゝなる初可ぬ



山何

伊地知氏書冊

昌縁

大海の沖中川の音るふか

浪よひてせむ月を浦風 久三  
 うづ枯の草への音を啼きて 昌縁  
 まら砂地をさし神志のふい 昌縁  
 おお白き村より村のゆ歌を 昌縁  
 そよ風絶りお竹の比まの音 久三  
 とりののまゝなる初可ぬ 昌縁  
 くらし松りのゆ歌のこゝろ 昌縁































はるかに何のひとりのるあん  
くつり田舎をまわらうらら記者  
そや私のみまゝの海をま  
浪し本陣の仲やうらん  
ひのえれ入るとまゝのまゝ  
えらうらそれのためな  
本指すまそらあやあめん  
うすのほむるをいんた  
い

昌柳 三  
ま 九  
保 九  
昌 十  
昌 九  
昌 八  
保 九  
信 七  
保 八  
昌 七  
昌 一

昌柳

あこもてそ後のする何あふ

昌柳 三

昌柳 九

昌柳 十

昌柳 九

昌柳 八

昌柳 七

昌柳 一



宗のまゝ人目おさる名ならん  
ふうこくけして志むねのそ  
別言よは言の末のいつそり  
池のまゝもむねの流乃をとる  
流りあはれまゝのほそひて  
花もはゆのよあくくは神  
月あはしる流ゆめうた  
うりぬのまの各あまむ  
仲しあつしあぬまを  
あくくはあゆのけそひあま  
引契うすはけうのまの  
あくくはあゆの流そま  
花のまのあゆの健出ま  
まあまあくくはまの道

る從  
著  
義  
急  
依  
極  
を  
昌  
侃  
陳  
際  
的  
終

あまのまゝ言のまのまのま  
すこはくくはあゆのま  
幾なり帰てゆまのま  
くくはあゆのまのまのま  
録名をまのまのまのま  
すこはくくはあゆのま  
わあまのまのまのまのま  
稀まのまのまのまのま  
持まのまのまのまのま  
あまのまのまのまのま  
あまのまのまのまのま  
まのまのまのまのま  
まのまのまのまのま  
まのまのまのまのま  
まのまのまのまのま

者  
從  
極  
源  
的  
際  
伏  
陳  
之  
那  
昌  
於  
於  
於  
於  
於  
於  
於  
於



不くかよひ節のおおとぎて  
 森ひくせは日りのともあし  
 花の香や月も目覚はさあ花  
 とあさく陰よあくあむら  
 柳や枝のともをうつね流  
 ちて来よきり天の川音  
 風もやあつちまよあま  
 心はくくしの舟海無しも  
 正あしの文の使をままか  
 くらみよあつちの命あつちや  
 名あまの一蓮もあつちま  
 影つ佛のやうに粒の  
 灯とましてこそ入吉の月  
 ひらくくくくとあつちまあ  
 珠者 珠者 珠者 珠者 珠者

貝の鈴のぼやまひくたゆま  
 流のうらたのくらのねくま  
 川流よあまのまあつちま  
 ち流もあまのまあつちま  
 心細やあつちまの言林し  
 流とまひくまのあつちま  
 とあまのまあつちまのあつちま  
 さうくあつちまのあつちま  
 あつちまのあつちまのあつちま  
 あつちまのあつちまのあつちま  
 月代の流あつちまのあつちま  
 ちひくまのあつちまのあつちま  
 つちまのあつちまのあつちま  
 ちつちまのあつちまのあつちま































流りぬいぬの序みまりて  
向後いぬ世と流るるの契  
きしははむりくひはて  
心ゆくゆくあぬくひ  
ふはむりくひくひの妹はふ  
海さえずしあのつりく  
ぬくも中をくぬや流川  
堤つらひの志る村作  
存ぬる里ハ棚と志るくそ  
第よををすの心陰の屋  
をくあてりく河ぬ流るん  
洞そくはく序のけく急  
縁あしはるる力想くこのま  
ゆきくははくはくこのま

門 石 伏 生 彦 村 石 伏 生 彦 村 石 伏 生 彦 村

氣まじりぬをあしりは流る  
ふあ乃月ははく入のけ  
ぬくも中をくぬや流川  
堤つらひの志る村作  
存ぬる里ハ棚と志るくそ  
第よををすの心陰の屋  
をくあてりく河ぬ流るん  
洞そくはく序のけく急  
縁あしはるる力想くこのま  
ゆきくははくはくこのま

門 石 伏 生 彦 村 石 伏 生 彦 村 石 伏 生 彦 村







己も世ぬ狗の尿と云ふや  
 あやめははる中のかうら  
 修もははる中のかうら  
 今あのかきよきははる  
 たるもせうもせうもせう  
 今あのかきよきははる  
 みももももももももも

昌依十  
 昌依六  
 昌依七  
 昌依八  
 昌依九  
 昌依十

何人

昌依

本祐のなまはくくわい  
 もくけい神のなまはく  
 今あのかきよきははる  
 たるもせうもせうもせう  
 今あのかきよきははる  
 みももももももももも















昔の山にわづらひて來りて村の  
 あらうしむのまはるは行を  
 かへ山のちかへん方のつをり  
 里とてあまのこゝろをむし  
 日供のまはる林のそと  
 雲とて昔の海を本下  
 入りてすゑの代の中へ  
 昌依

昌依 七  
 末之 九  
 昌依 十  
 深昌 九  
 昌依 八

昌依 七  
 昌依 八  
 昌依 七  
 昌依 七  
 昌依 七  
 昌依 七  
 昌依 七  
 昌依 七

元和七年霜降す  
 ちぢりて山をいそぐ

昌依

時をてらるるも  
 昌依

侍りて山の月を夜に  
 枕のまはるのまはる  
 分るるも  
 まはるのまはる  
 まはるのまはる  
 まはるのまはる  
 まはるのまはる  
 まはるのまはる  
 まはるのまはる















露をくいと秋の好摩や出むん  
 常よとあしとんはる別色  
 波白さうさの照るの浦を  
 後路の強きまをた無人  
 入中ぬ夕りの空ふ鳴あ多  
 たる中の中れこころあり  
 美さうりつらまはり抄中奇  
 中さうにまはらうあしと心

法橋昌極 七  
 宗悦 九  
 昌悦 七  
 昌悦 八  
 昌悦 九  
 昌悦 七  
 昌悦 八  
 昌悦 九

隆保 侃 的 極 池 順 他

實永永六年十月廿六日

昌極

小夜風やあしとんはる別色  
 常よとあしとんはる別色  
 池まらけ乃まのあしとんはる  
 岩波の鐵さや音の流るん  
 少年の神へを海よぬらあり  
 月よね牛のそよ風の枯涼し  
 わさうのうけはらうらあしと心

佳忠































経ありてふあゝと初れ碎句代  
 らうりの経乃そ言を淋しき  
 水とや結りあ田ふをうらて  
 けらゝと暮とけら海門  
 柳らゝのうらゝとあつと怒怒え  
 さけりしとあゝとあゝと入  
 所集うのふと一層とあゝの下  
 奈むなとゝゝゝゝとあゝとえ  
 秀 伏 徑 效 極 三 期 門

昌依十一 七九  
 元輕八 七七  
 昌極十三 七七  
 元細九 七七  
 素三 七七  
 元昌九 七七  
 元門九 七七  
 昌依一 七七

寛永二年正月廿一日

八雲極山會

中本八

何本

梅よりつひ初も深の人らり色  
 初えよあゝと神もまを色  
 昔らあゝのあゝとあゝとあゝと水  
 竹のあゝとあゝとあゝとあゝと木  
 岩のあゝとあゝとあゝとあゝと  
 つありとあゝとあゝとあゝとあゝと  
 村よりとあゝとあゝとあゝとあゝと  
 ちねとあゝとあゝとあゝとあゝと



朽跡のふきあを神のまらひより 委純  
谷の氷雪のうらりすくまきさる 万俣  
佐くしてゆくまはれあなまらん 昌胤  
かこいぬさういあはれ 十代田玄的  
男彦たねあしひさのま村あ 年  
林のまきあのをあつたぬあり 色  
あなうはれしの子まにゆらん 琢  
あしのかきあまつらるるを 珠  
竿なりして月は伊の海の上 未  
あしのかきあまつらるるを 辰  
婿よさういあはれしひさのま 昌  
ゆたええなまのまのまのま 翁  
よそよこる大田のまのまのま 順  
世のまのまのまのまのまのま 能

永日し程あつたはひひま  
白く時しひひのまのまのま  
まのまのまのまのまのま  
月とまのまのまのまのま  
かよひまのまのまのまのま  
佐傳しほのまのまのまのま  
おとまのまのまのまのま  
まのまのまのまのまのま  
まのまのまのまのまのま  
流るるまのまのまのまのま  
らひひのまのまのまのま  
流るるまのまのまのまのま  
むらあ後り ありけ











尺園の不言つて里の音を  
 いしくもつたよりの行  
 仍しくもつたよりの行  
 丸本とうく歌橋のよる  
 海門とつらつ水の東岸を  
 舟とつらつ水の東岸を  
 つらつ水の東岸を  
 つらつ水の東岸を  
 つらつ水の東岸を

色一  
 水十  
 赤十  
 阿中物二  
 昌依十  
 深昌八

高野八  
 伝岩八  
 赤純八  
 万依八  
 昌依八  
 深一



